

2009年(平成21年)12月11日(金曜日)

乗鞍で観光客ら襲撃

熊残飯目当てではなく

2500m前後の高山帯・亜高山帯にあるハイマツの球果、キノアザミの葉などが含まれ、人が出した残飯はなかった。

素と窒素の安定同位体のそれぞれ... 本認証サービス(横浜市)の中下...

NPO法人信州ツキノワグマ研究会(松本市)と岐阜大の研究グループは、岐阜県高山市の乗鞍岳山頂付近で観光客ら10人にけがを負わせた熊について、体毛や胃腸の内容物を分析し、「残飯に誘引されたのではなく、バスターミナルに現れてパニックに陥り、居合わせた人を襲った可能性が高い」との調査結果を10日までにまとめた。

熊は9月19日、標高約2700mにある通称・畳平バスターミナル脇の登山口付近に現れ、観光客や山荘経営者らを次々に襲った。駆けつけた猟友会員が射殺。岐阜大が熊の胃腸の内容物を調べ、研究会が体毛を分析した。

岐阜大応用生物科学部の浅野玄准教授(野生動物医学)によると、熊は19歳前後の雄で、体長133cm、体重67kg。胃腸の中には標高

人前を出てパニック

NPOなど食性調査



乗鞍岳山頂付近で10人にけがを負わせた熊の胃の内容物。左端のシャーレにあるのがハイマツの球果の破片、右端はキノアザミの葉(岐阜大提供)

体毛分析による食性調査 原子核をつくる中性子の数の違いで質量数だけが異なる同一元素「安定同位体」のうち、C12(質量数12)とC13がある炭素と、N14とN15がある窒素の比率をそれぞれ調べる方法。自然の木の実はC13とN15の比率が共に低く、残飯は共に高い。熊の体毛は、食べ物の安定同位体と同様の比率を示すため、どんなものを食べたのか推測できる。

同研究会は、体毛に含まれる炭素と窒素の安定同位体のそれぞれ... 可能性は低い」としている。

同研究会の林秀剛代表は「ふんを垂れ流しながらバスターミナルを動いていた状況からして、熊は相当なパニックに陥っていた」と指摘。バスターミナルに出ている前に熊に石を投げた人がいたとの情報もあることを踏まえ、「畳平一帯に熊がいることを人間側が認識する必要がある。もし出合ったら大声を出したり物を投げたりせず、静かにその場を離れるなどの対応を、観光関係者が観光客に教えていくことが必要ではないか」としている。